

10月の市算研ニュース

今月の市算研

- 各学年部会
会員による実践提案と研究協議が行われました。
- 算数指導法基礎講座
- 幹事研修会
市算研副会長南部礼子先生による講演がありました。

算数指導法基礎講座

～10月「生活の中から算数の教材を探す」～



2期制の学校にとって学期末となる中、お集まりの先生方は熱心に話し合いをしていました。

11月は一斉授業研の指導案検討、基礎講座は開かれませんが、指導案検討の部会にご参加ください。

1月のテーマ・単元(予定)

テーマ「1時間の授業評価をどう行うか」

- | | |
|---------------|----------------|
| 1年「図を使って考えよう」 | 2年「はこの形」 |
| 3年「三角形」 | 4年「小数のかけ算とわり算」 |
| 5年「百分率とグラフ」 | 6年「資料の調べ方」 |

幹事研修会

講師：市算研副会長 南部礼子先生（浜小校長）

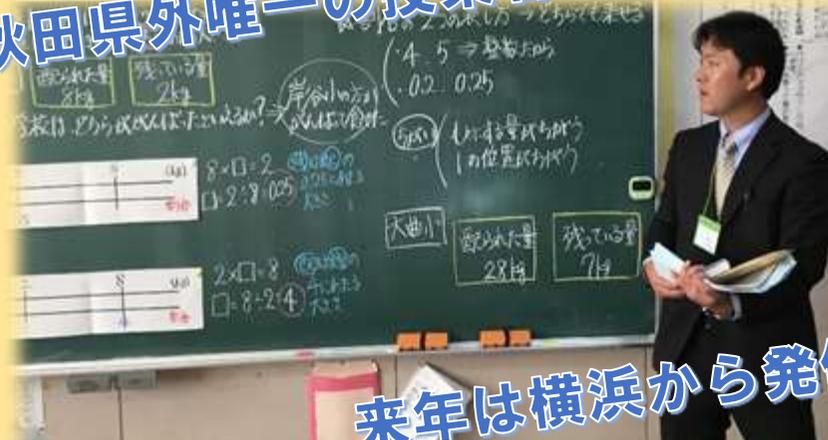
「子どもが輝く授業」についてのお話しでした。
磯子区や浜小学校での授業実践事例、さらにご自身が最近実践された事例も紹介してくださいました。
また、次期指導要領の改定についても触れていただき、参会者にとっては、今後どのような点に留意して授業づくりをすることが「子どもが輝く」ことにつながるか学びの機会となりました。

子どもが輝く授業とは!?



新算研全国大会 in 秋田

秋田県外唯一の授業者!



来年は横浜から発信!

10月23日(日)秋田県大仙市立大曲小学校で小学校算数教育研究全国大会が行われました。研究授業も行われましたが、秋田県外の唯一の授業者として、岸谷小学校の大井先生が研究授業をされました。来年の全国大会は横浜で開かれます。

低学年部会の様子「分数」中村 駿斗先生（つづきの丘小）

講師：柳澤潤先生（六つ川台小校長）松本理孝先生（鶴ヶ峯小学校長）丸山邦子先生（永谷小学校長）

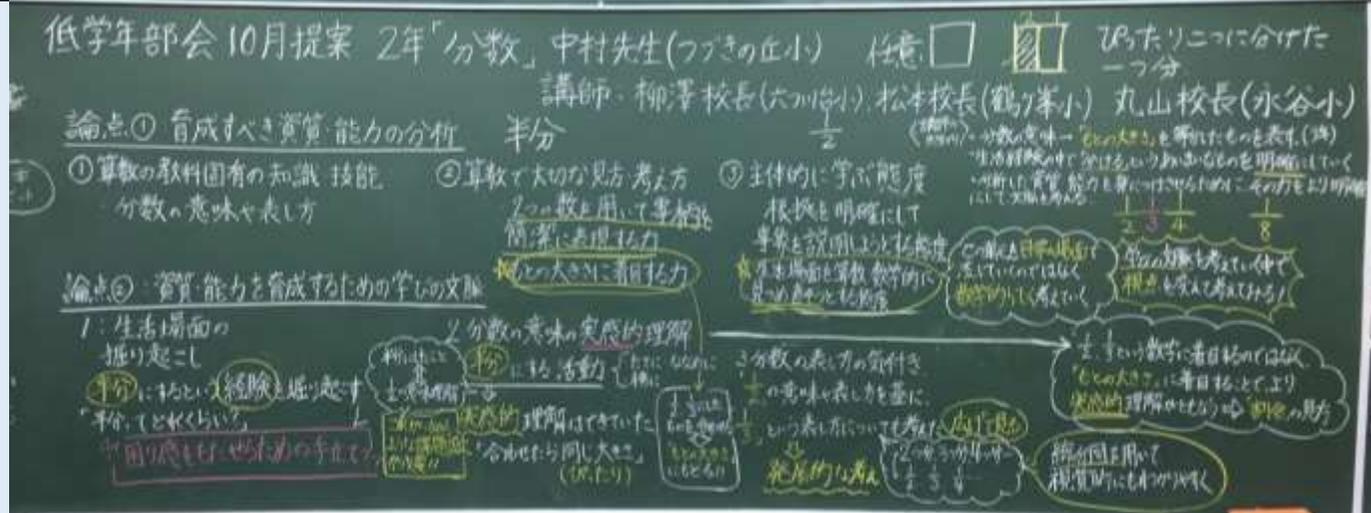
<提案の内容>

（育てたい資質能力）

- 分数の意味や表し方
- もとの大きさに着目する力
- 生活場面を算数・数学的に見つめ直すとする態度

（学びの文脈）

- 日常場面の“半分にする”という経験を掘り起し、問題意識を高めて算数の学習に繋げる。
- 様々な分け方で半分にし、合わせたらもとの大きさと同じであることや、分けた2つはぴったり重なることなどを通して、分数の意味を実感的に理解する。



○もとの大きさを意識した指導

- 2つに分けたものを1つに戻してもとの大きさになることを確認したり、もとの大きさの2分の1と表したりすることで、もとの大きさを意識させていく。

<成果・今後の課題>

- 生活場面から課題を見出せるようにしたことで、子どもたちが進んで考えようと取り組んだ。
- 数を広げていくという視点から、学びの文脈を再検討することで、「もとの大きさ」への意識や、2分の1、4分の1、8分の1から、その間の3分の1についても考えよう子どもたちが進んで考えられるようにする。

○1/2を実感的に理解すること

- ただ折り紙を2等分するだけではなく、どんな作業をしたのか、子どもたちが説明することで、1/2の意味を理解することにつながる。

○子どもの思考対象を明確にすること

- 2分の1と半分はどう違うのか。半분을数で言えないだろうかという問いを子どもたちにもたせることが必要。

<講師の指導>

- 「半分」「4人で分ける」というあいまいだったことを、「同じ大きさに2つに分けた1つ分」というはっきりしたものに変える学習である。
- 操作活動を通して、子どもたちが発見していくことを大切すべきである。そのためには子どもたちに教えるばかりでなく、子どもたちが気づくのを待つのも大切。子どもがつくる算数の授業になるようにする。



中学年部会の様子 「計算のきまり」 草野 健太先生（末吉小）

講師：田子康之先生（中川小校長） 大島宏二先生（岸谷小校長） 浜名伸明先生（下和泉小校長）

<提案の内容>

（育てたい資質能力）

- 正しく式を用いたり計算したりする技能
 - 数量の関係を言葉、数、式、図などを用いて簡潔・明瞭に表現し、説明する力
 - 数の範囲を拡張して発展的に考えたことを、批判的に検討しようとする態度
- （学びの文脈）
- 黒丸●と白丸○の違いを表せる再現性に着目し、式の意味を確認する。
 - 式を用いて場面を表現し、また式に表現された思考過程を読み、式のよさを実感する。



○式の再現性に着目させること

- 黒丸●・白丸○の混じった場面を扱うことが式の再現性だけでなく、かけ算として場面を捉えることにもつながった。
- 移動できるものを取り上げることで、B,Cの場面につなげることができる。



○思考対象の明確化

- Aの場面とB,Cの場面では思考の対象が変わっている。
- 図を1つの式に表そう、などと問うてもよかった。
- 式から図への再現と図から表した式は必ずしも同じではない。

○自分たちの解決を批判的に検証すること

- 「前と同じようには移動できない…厳しい」で終わらせないで、そこをさらに考えさせたい。
- でっぱりを移動する考え方がいつでも使えるか批判的に捉えさせたかった。

<成果・今後の課題>

- 本時で身に付けさせたい力を育成する展開になっていた。
- 発展の問題は、白丸○の数が多くなっただけになってしまっているため、検討が必要。

<講師の指導>

- 本時は思考労力の節約なのか、数の範囲の拡張なのか、どこに焦点をあてるか考えることが必要。
- 子どもの実態を踏まえると、Bの場面の○の数を減らすという展開でもよかった。
- 「式を書くこと・読むこと」は表裏一体あるから、一時間で両方から扱うべきである。式と図や言葉を児童が行き来し、図と式の関連づけてみることで、児童が式のよさを実感することにつながる。

高学年部会の様子 「単元名 比べ方を考えよう」葛谷 勲先生（原小）

講師：徳江武司先生（もえぎ野小校長）菊地信明先生（今宿南小校長）平井克明先生（和泉小校長）

<提案の内容>

（育てたい資質能力）

- 平均や単分量あたりの大きさを比べること
- 単分量あたりの大きさの比べ方を既習の量と統合して考えること
- 情報過多の場面から条件を判断する態度、単分量あたりの大きさをを用いて、合理的・能率的に比べられるよさ（学びの文脈）
- 『車の性能』をキーワードに、様々な情報の中から、思考の対象を絞る。
- 比べるのに2量が必要なことと比較する点を明確にし、「揃える」ことのよさを実感する。

○素材について

- 『車の性能』は、本当に子どもたちにとって身近な問題なのか。
- 必要感があること、経験から考えたり驚きをもって取り組めることが大切。



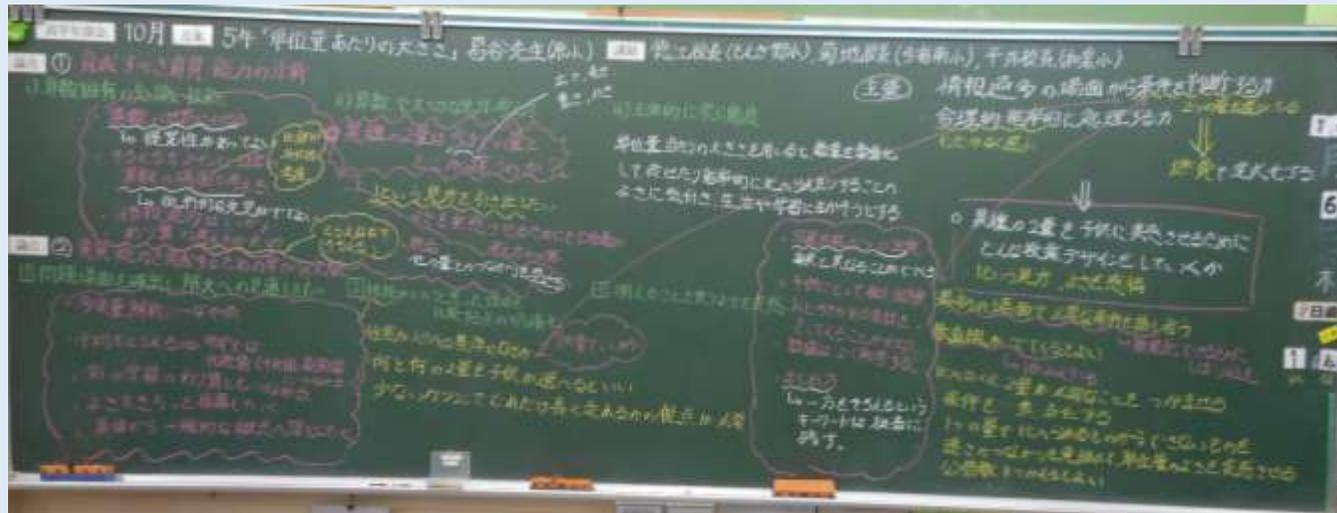
○数値の設定

- 一方をそろえるよさに結びつく数値や、数直線上に表すよさを実感できる数値にする必要がある。



○思考の文脈が見える板書のあり方

- 「一方をそろえる」につながる板書がほとんど残っていない。結果だけでなく、考えたことや気づいたことを板書に残すことで、子どもたちが大切な考えを意識することにつながる。
- 数直線や、公倍数の考えも出し、板書に整理するとよかった。



<成果・今後の課題>

- 日常の事象を算数の世界にのせるという視点は価値がある。
- 既習のどの学習に統合するかを明確にし、まとめに表れるようにしたい。

<講師の指導>

- この学習は、統計や標本につながっていく内容である。
- 情報過多の問題では、何を比較するかが分かった上で、どの数値が必要か考えることに意味がある。
- 「そろえる」をメインに気づきを促す展開にしたい。何をそろえたかを式や図と結びつけて板書やノートに残せるとよい。
- 除法の意味の捉え直しの学習である。割ることで、一方がそろえよさを理解し、除法を道具として使える子を育てたい。